

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	英 美由紀【論文博士】(比較社会文化学専攻 平成23年3月単位修得退学)	<p>審査委員会では、全体的には論文としての形式、英語の文章の明解さと使用語彙の適切さ、先行研究への目配りと丁寧な記述にはみるべきものがあり、包括的な研究として位置付けるに値する研究であることが確認された。</p> <p>その上で、本論文の大きな問題点とされたのは、論文の構成について、エピソードと題する結論部分で、新たな作品分析が展開している点であった。そこで、これを改めて1つの章として第4部に組み込み、新たに結論部を追加することが提案された。また、論文題目について、提出された題目は二項対立を強調するものであったが、二項対立を解体することが一義的であると主張することが主眼であるような印象を与えているので、論文の内容および論旨に沿ったタイトルを新たに検討することが提案された。</p> <p>また、論文の内容に関しては、依拠する先行研究の記述部分が多くを占めており、執筆者のオリジナルな議論の展開が少なく説明に終始している印象があること、とくに第8章の岡崎京子作品の考察については、論文筆者による分析を必要があること、ジェンダーの問題に「人種」は交差させているが、「階級」や「資本主義」、「ネオリベラリズム」といった問題についての議論が希薄であること、よって貧困や経済の問題との関連において検討されるべき身体像と階級の問題が明らかになっていないこと、美容整形について何をどこまで美容整形というのかという定義がなされていないこと、などの指摘がなされた。</p> <p>以上の点について改稿し、どのような知見が確認され、また、どのような問題点や課題が明らかになったかを含め、結論としてあらたに執筆することが求められた。</p> <p>これを受けて修正・改稿された論文を審査委員が確認した後に臨んだ公開発表会では、その修正が生かされ、本論文の流れと論点が明解に説明され、質疑応答も適切であった。最終審査では、提案・要求された改稿・修正が適切になされていることが確認された。</p> <p>以上のことから、本審査委員会は、博士(人文科学) Ph.D. in Literature の学位にふさわしい論文であると判定し、合格とした。</p>
論文題目	Subversive Potential of the Body: Representations of Cosmetic Surgery in Contemporary Anglo-American and Japanese Literary and Visual Texts	
審査委員	(主査) 教授 戸谷 陽子	
	教授 松崎 毅	
	准教授 清水 徹郎	
	教授 天野 知香	
	教授 舘 かおる	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ ㊦)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">①. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">㊦. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	